

校長ニューズレター（第5号・8月号） 宜野湾市立長田小学校校長：横山芳春



### ベトナムの農村トレッキング

夏休みを利用して、ベトナムと中国の国境付近を旅行しました。棚田がよく発達した地域の山歩きです。

那覇国際空港からの出発がたいへんでした。8月6日の夕方にホンコンエクスプレス航空で、まず香港に向かい、乗り継ぎでその日のうちにハノイ到着という予定でした。

那覇空港に昼過ぎに行ったのですが、台風8号の影響で香港からの到着が遅延とのこと。しばらく空港で待っていると、出発は20時になるとの掲示物がでた。さらにその後、那覇空港は夕方から閉鎖の予定となり、したがって私の便もキャンセルになりました。

自宅に戻り、夜になってホンコンエクスプレス社に電話したところ、明朝出発とのこと。あとで分かったことですが、同社は7日の早朝に香港から2便（赤字覚悟で空便）を飛ばしてくれていた。香港に着いたのが朝の8時ごろ。乗りつぎのハノイ行きは21時45分発。それで、香港空港で半日ほど待つ羽目に。空港で、飯を食ったり（実に旨かった）散歩したり、本を読んだり、旅行客の観察をしたり・・・ほとんど米国映画の「ターミナル」状態。やっとのことで、ハノイに深夜到着しました。

そんなドタバタのあと、つぎの日の夜には、ラオカイ（中国との国境付近の町）行きの寝台列車に飛び乗り、いよいよベトナム最北部へ。農村トレッキング（山歩き）のはじまりだ。

この小旅行は、ハノイの現地旅行社が企画しているもので、4泊5日の日程。寝台列車の往復、ホテルと民家の宿泊（計2泊）、全食事、車代、ガイド料ひっくるめて、1万5千円ほどの

料金だった。

インターネットで知り、自宅から参加の予約をしていた。沖縄からは私一人の予約であった（私は一人旅だった）。現地では、24才のベルギー人（同国でトヨタ自動車につとめている）の青年、その彼女である23才のフランス人、59才のドイツ人（赤十字の仕事でバングラデシュに滞在中）、年齢不詳の英語教師のイギリス人女性、それと私の5人のグループ旅行になった。もちろんベトナム人の青年ガイド（お笑い芸人の名倉潤さんに似ている）も同行。

1日目は、バクハーという町の青空マーケット（土曜と日曜日にひらかれる）見学。近隣の村々から、さまざまな少数民族が集まってきて、物を売ったり買ったり、にぎわいを楽しんだり。何を売っているかのぞいてみると、水牛がまず目に飛びこんだ。1頭が6万から10万円とのこと。馬も売っている。かわいいところでは、小鳥も売っている。竹製の鳥かごに思い思いの小鳥をいれている。鳴き声を楽しむ趣味である。

肉屋、魚屋、乾物屋。観光客相手に民族衣装風の座布団カバー、財布、バック。驚いたのが、たばこやさん。地面の上の布きれ上に、バケツ5はい分くらいの刻みたばこ3種類が無造作に積み上げられている。みていると客がその一山を指さすと、尺八くらいの大きさの竹製キセルにそのたばこをつめて、吸い出している。料金不明。食堂がもっとも迫力があつた。バラック屋根に地面そのまま木製のイスとテーブル。そこでほとんどの人が、うどん(?)を食べていた。いっぱい飲み屋があり（これも屋根とイス・テーブルだけ）、日本酒とほぼ同じ物を飲ん

でいる。つまみは動物の内臓。ガイドさんいわく、好きな人は一日中飲んでいるとのこと。二日目は、棚田が広がる山沿いを18キロのトレッキング。この旅のハイライト。宿泊は、民家が10軒ほどの村の一軒家。棚田に面したテラスで、我がグループの面々と楽しい会食。ベトナムの話や、トヨタ自動車の話。刺身と寿司の違いの話題など・・・楽しい夕食でした。

寝室は、この民家の2階。ワンフロアで16畳くらいか。一人一人に布団が敷かれ個人用蚊帳がつりさげられている。まるで修学旅行の気分だ。みんなはしゃいでいる。

ハノイは酷暑だったが、この地域は標高1500mぐらいのところ、夜はけっこう分厚い布団が必要なところ。気持ちよく眠ることができた。

美しく整えられた棚田を歩き回って考えたこと。棚田は、雨水をたくわえ洪水を防いでくれる。地下水をかん養、川の水量を年中安定させてくれる。土砂を受け止めたり、雨による土壌の侵食も防いでいる。その結果、河川の保全、海の保全に役立っている。稲と水で気温上昇の歯止めにも貢献している。多様な生き物も育てている。(山歩きの途上、現地の子供たちがドジョウをつかまえていた。今晚のおかずかな・・・)

棚田は山の保全にたいそう役立っていることだろう。人が賢明に管理することで、何百年もの間、棚田は守られてきたことであろう。棚田は、おいしいお米、お酒を私たちに提供してくれ、環境保全にも貢献している。そんなことが実感できた旅でした。

(ベトナム旅行のスライドを、1学期後期の初日に子供たちに見せようと準備していました。新型インフルエンザの影響で、大事をとってこの日は朝会を中止。いずれ日を改めて、子供たちにベトナムの紹介をしようと考えています。)

(写真) 1番目：棚田。2番目：水牛の市場。3番目：市場の食堂。4番目：少数民族の人々(青空マーケットにて)。

